

厚生労働科学研究費補助金
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合究事業
分担研究報告書

特定健診質問票 質問項目の検討（飲酒・喫煙）

松尾恵太郎 愛知県がんセンター研究所遺伝子医療研究部・部長

日本人の生活習慣の変化等により、近年糖尿病等の生活習慣病の有病者、予備軍が増加しており、それを原因とする死亡の全死亡に対する割合も非常に高いものとなっている。このような状況への対策として平成20年4月より特定健康診査が始まった。早期に生活習慣に介入することにより生活習慣病の重症化を防ぐ事はその趣旨である。すでに開始より8年が経過しており、特定健康診査において用いられている現標準質問票に対して見直しが進められてきた。本研究では、改訂標準質問票に対する質問票項目の意義に関する解説ならびに保健指導を行うに当たって補助となる質問票項目を開発することを目的とした。

既に論文として公表されている飲酒・喫煙の健康影響のエビデンスのうち、補足的に用いられる質問として有効なエビデンスを米国国立図書館のデータベースPubMedデータベースを用いて検索した。

喫煙に関しては、保健指導介入において喫煙者に対する禁煙誘導が重要である事、禁煙誘導における対象者の喫煙依存度の把握が重要である事から、喫煙依存度の指標であるFagerstrom Test for Nicotine Dependenceの更なる簡易指標であるHeavy Smoking Indexを採用し、補助質問項目とした。また飲酒に関しては東アジア人で多く認められるAldehyde dehydrogenase 2遺伝子多型の不活性遺伝子型保持者における飲酒の悪影響の指標として、少量飲酒後の発赤反応の有無に関する質問表を補助項目として採用した。

A. 研究目的

日本人の生活習慣の変化等により、近年糖尿病等の生活習慣病の有病者、予備軍が増加しており、それを原因とする死亡の全死亡に対する割合も非常に高いものとなっている。このような状況への対策として平成20年4月より特定健康診査が始まった。早期に生活習慣に介入することにより生活習慣病の重症化を防ぐ事はその趣旨である。すでに開始より8年が経過しており、昨年度より特定健康診査全体のあり方の見直しが検討されてきた。その中で作成された改訂版の標準質問票に対して、保健指導で必要とされる質問票の意義に関する解説書、ならびに、保健指導を行う上で補助となる質問票項目を開発することを目的とした検討を行った。

B. 研究方法

米国国立図書館のデータベースPubMedデータベースを用いて、喫煙・飲酒の健康影響に対して補足

的に用いられる疫学研究を同定した。

（倫理面への配慮）

この研究方法は、既報告の結果に基づいており、倫理面での問題はない。

C. 研究結果

① 喫煙に関する検討

喫煙者に対する保健指導介入としては禁煙誘導が重要である。故に、補足的な質問票に加える質問項目としては、禁煙誘導における対象者の喫煙依存度の把握が重要である。現在喫煙依存度の指標として、用いられているFagerstrom Test for Nicotine Dependence (FTND)は質問項目が6つあり、保健指導現場においての利用に関しては実効性が低い。FTND 6項目のうち、喫煙本数、早朝喫煙時間の2項目を用いるHeavy Smoking Indexは、FTNDとほぼ同様の有効性がある事が示されており、補助質問項目として、有効であると判定し採用した。

② 飲酒に関する検討

飲酒の健康影響として、東アジアで頻度の高い、Aldehydedehydrogenase2 (ALDH2) 活性欠損遺伝子型保有者に対する対応が、これまでの疫学研究より保健指導において重要であることが示唆されている。遺伝子型を質問票で把握する方法に関しては、これまでに多くの報告がある。少量飲酒時の発赤反応の有無を問うことが、補足的な質問項目として有用であると考え採用した。

D. 考察と結論

喫煙・飲酒は様々な生活習慣病に関する重要なリスク要因で有り、特定健診でも重要な保健指導の対象となるものである。現状、あるいは改訂の標準質問票項目に対して、簡易ながら補足的な項目を付け加えることで、指導現場における指導の有効性を上げることが期待できると考える。

E. 研究発表

1. 論文発表

1. Masaoka H, Ito H, Gallus S, Watanabe M, Yokomizo A, Eto M, Matsuo K. Combination of ALDH2 and ADH1B polymorphisms is associated with smoking initiation: A large-scale cross-sectional study in a Japanese population. *Drug Alcohol Depend.* 2017; **173**:85-91.
2. Koyanagi YN, Ito H, Oze I, Hosono S, Tanaka H, Abe T, Shimizu Y, Hasegawa Y, Matsuo K. Development of a prediction model and estimation of cumulative risk for upper aerodigestive tract cancer on the basis of the aldehyde dehydrogenase 2 genotype and alcohol consumption in a Japanese population. *Eur J Cancer Prev.* 2017; **26**:38-47.
3. Masaoka H, Ito H, Soga N, Hosono S, Oze I, Watanabe M, Tanaka H, Yokomizo A, Hayashi N, Eto M, Matsuo K. Aldehyde dehydrogenase 2 (ALDH2) and alcohol dehydrogenase 1B (ADH1B) polymorphisms exacerbate bladder cancer risk associated with alcohol drinking: gene-environment interaction. *Carcinogenesis.* 2016; **37**:583-588.
4. Kawakita D, Oze I, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Yatabe Y, Hasegawa Y, Murakami S, Tanaka H, Matsuo K. Prognostic Value of Drinking Status and Aldehyde Dehydrogenase 2 Polymorphism in Patients With Head and Neck Squamous Cell Carcinoma. *J Epidemiol.* 2016; **26**:292-299.
5. Masaoka H, Gallus S, Ito H, Watanabe M, Yokomizo A, Eto M, Matsuo K. Aldehyde Dehydrogenase 2 Polymorphism Is a Predictor of Smoking Cessation. *Nicotine Tob Res.* 2017. in press.

2. 学会発表

該当なし